

監督◆インタビュー

監督

ランコ ポポヴィッチ

RANKO POPOVIC

プロフィールは  
こちらをクリック!

--5連戦を終えて、2日間のオフを取り、選手たちはリフレッシュできた様子でしょうか。  
「トレーニングの中での選手たちの動きも軽快ですし、良いリフレッシュになったと思います」

--準備期間の初日は2部練習を組み込み、かなりハードなトレーニングで追い込みました。その意図を聞かせて下さい。

「チームとしてやるべきことをやっていくことやインテンシティーを発揮すること、また我慢強く戦うことなど、忘れかけていた部分がありました。結果に対する想いが強過ぎてボールに行き過ぎてしまう、それによって穴を開けて、その隙を突かれる形で失点にも繋がっていました。チームとして、そういった部分を見直す必要がありました。中央を開けてしまっただけでは失点の機会や相手の攻撃の回数を与えることに繋がるので、まずは相手に良い選択肢を持たせないこと。しっかりとプレッシャーを掛けてボールを奪いきることで良い守備から良い攻撃に繋げていく。今まで我々がやってきたことを取り戻そうと取り組んできました」

--よりチームのストロングポイントであるプレー強度を出せる状況を作るためのトレーニングに取り組んできた。

「例えば私が会社勤めだったとします。2階が自分の仕事場で9階に行くことはあっても、用事を済ませたら2階に帰ることと同じで、自分の持ち場を出て行かなければならない状況になっても、用事が済んだら、持ち場に戻っていくものです。ここ最近はそういったことが忘れがちになっていましたし、勝たなければならないとの想いから前掛かりになってしまい、それが穴を開けることに繋がっていました。そうした原理、原則ができていないと、結果には繋がっていきません。規律を守ることが重要ですし、発揮しているインテンシティーが無駄にならないように、効率良くストロングポイントであるプレー強度の部分をいかに出していくか。これからもそれを効果的にやっていく必要があります」

--新潟の印象は?

「先発メンバー、ベンチメンバー、非常にタレントが多く、選手層が厚いクラブです。千葉和彦、本間至恩ら、昨季の主力選手が控えに回る試合があるほどです。非常にスピーディーな攻撃を見せられているチームですし、前の4選手はここまでで合計120本近くのシュートを打っています。何を言いたいか、それだけ危険な選手が多いということです。そうした相手の良さを出させずに、どう戦っていくのか。もちろん簡単なことではないですが、そのための準備をしてきました」

--今節は「まちだ感謝祭」と銘打たれたホームゲームです。ファン、サポーターの皆様へメッセージをお願いいたします。

「皆様の支えは我々が戦う上で大事なものです。新潟戦は全力で応援して下さい皆様と、なかなか結果に繋がっていないという現状を打破するきっかけにする試合にしたいです。皆様の後押しを背に首位撃破に挑みたいと思います」

FC MACHIDA ZELVIA Official MATCHDAY PROGRAM DIGITAL

FC町田ゼルビアと、共に。  
CLUB  
ZELVISTA  
オフィシャルファンクラブ  
クラブゼルビスタ 2022  
シーズンシート

シーズンシート  
クラブゼルビスタ2022  
会員募集中!

